

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2004-215858
(43)Date of publication of application : 05.08.2004

(51)Int.CI A63B 23/00
A61K 1/00
A63B 21/065

(21)Application number : 2003-006450

(71)Applicant : SATOU SPORTS PLAZA KK
PHOENIX KK

(22)Date of filing : 14.01.2003

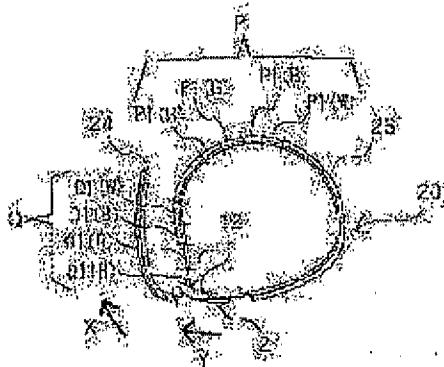
(72)Inventor : SATO YOSHIAKI
TAJIMA KAZUHIKO

(54) PRESSURIZATION MUSCULAR INTENSIFIER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pressurization muscular intensifier using an elastic tightening band, accurately setting pressure in the case of performing fastening operation.

SOLUTION: This pressurization muscular intensifier includes: a buckle 12; and an elastic belt 20, one end of which is fixed to the buckle 12. The belt 20 of the pressurization muscular intensifier is provided with hook-and-loop fasteners 23, 24 having elasticity, disposed on one side surface thereof. The pressurization muscular intensifier is provided with a first mark P and a second mark Q formed on the same surface as that having the hook-and-loop fasteners. In this pressurization muscular intensifier 1, the forward end of the belt 20 is passed through the buckle 12, turned back, and pulled, and the belt is fixed in its state by the hook-and-loop fasteners. At the time, a user aligns the second mark Q with the buckle in the case of turning back the belt at the buckle, and in the case of fixing the loop of the belt 20, the tip of the belt 20 is aligned with the first mark P, thereby facilitating setting of accurate fastening pressure.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-215858

(P2004-215858A)

(43) 公開日 平成16年8月5日(2004.8.5)

(51) Int.Cl.⁷

A63B 23/00

A61H 1/00

A63B 21/065

F I

A63B 23/00 Z

A61H 1/00 311Z

A63B 21/065

テーマコード(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 16 頁)

(21) 出願番号

特願2003-6450 (P2003-6450)

(22) 出願日

平成15年1月14日 (2003.1.14)

(71) 出願人 598087438

株式会社 サトウスポーツプラザ
東京都府中市八幡町2-4-1

(71) 出願人 390025128

株式会社フェニックス
東京都中央区日本橋室町4-3-15

(74) 代理人 100108604

弁理士 村松 義人

(74) 代理人 100099324

弁理士 鈴木 正剛

(72) 発明者 佐藤 義昭

東京都府中市八幡町2-4-1

(72) 発明者 田島 和彦

東京都中央区日本橋室町4-3-15 株式
会社フェニックス内

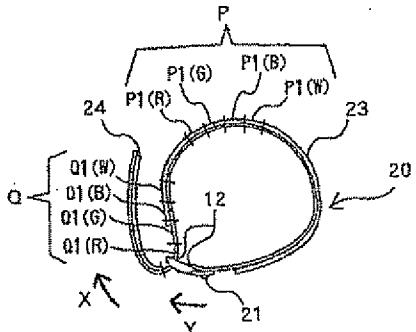
(54) 【発明の名称】 加圧筋肉増強器具

(57) 【要約】

【課題】 伸縮性のある緊締帶を用いた加圧筋肉増強器具を、締め付け作業を行う場合に、圧の設定を正確に行えるようとする。

【解決手段】 加圧筋肉増強器具は、バックル12と、バックル12にその一端が固定された伸縮性のあるベルト20を備えている。この加圧筋肉増強器具のベルト20はその一方側の面に、伸縮性を有する面ファスナ23、24が設けられている。加圧筋肉増強器具は、面ファスナが設けられたのと同じ面に、第1印P、及び第2印Qを持っています。この加圧筋肉増強器具1は、バックル20にベルト20の先端を通して折り返して引っ張り、その状態で面ファスナによる固定を行う。そのとき使用者は、バックルでベルトを折り返す場合には第2印Qをバックルに合せ、ベルト20のループを固定する場合には、第1印Pにベルト20先端を合せることで、正確な締め付け圧の設定を容易に行えるようになる。

【選択図】 図6



[特許請求の範囲]

[請求項 1]

帯状で伸縮性を持った緊縛帯と、前記緊縛帯の所定の部位に取付けられると共に、緊縛帶の一端を通すことのできる孔を備えており、緊縛帯の前記一端を前記孔に通して折り返すことで、緊縛帯の他端側をループ形状に保つ形状保持手段と、前記形状保持手段によって保たれたループ形状のループの長さを固定するために、前記緊縛帯のループを作る部分の外側に設けられた緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第1面ファスナ、及び前記緊縛帯のループを作らない部分の前記第1面ファスナと対向する面に設けられ、前記第1面ファスナと固着する、緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第2面ファスナと、を備えてなり、前記形状保持手段によってループ形状が保たれている緊縛帯の内側にある身体の所定部位に、前記ループの長さを縮められ、前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで前記ループの長さを固定された緊縛帯によって圧を与えることで、血流を阻害できるように構成されている加圧筋肉増強器具であって、
前記緊縛帯の前記ループを作る部位には、第1印が、
前記緊縛帯の前記折り返しを行う部位には、そこで折り返しを行うべきであることを示す第2印が、
前記緊縛帯の前記ループを作る部分以外の部位には、前記ループの長さを縮める際に、前記ループの第1印と一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着すべきであることを示す第3印が、
それぞれ設けられている、加圧筋肉増強器具。

10

20

30

[請求項 2]

前記第1印、前記第2印、前記第3印の少なくとも一つは、前記緊縛帯の長さ方向で所定の長さを持っている、
請求項1記載の加圧筋肉増強器具。

[請求項 3]

前記第1印は前記緊縛帯の長さ方向の異なる位置に設けられた複数の第1副印を含んでおり、前記第2印は前記緊縛帯の長さ方向の異なる位置に設けられた、前記第1副印と同数であり、前記第1副印とそれぞれ対応付けられた、複数の第2副印を含んでおり、前記第2副印のいずれかを選択し、当該第2副印のある部位で前記緊縛帯の折り返しを行うとともに、当該第2副印と対応付けられた前記第1副印と前記第3印を一致させた状態で、前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで、前記緊縛帯が身体の所定部位に与える圧を選択できるようになっている、
請求項1記載の加圧筋肉増強器具。

[請求項 4]

前記複数の第1副印と、前記複数の前記第2副印との前記対応付けは、使用者が、それを視覚的に把握できるようになっている、
請求項3記載の加圧筋肉増強器具。

[請求項 5]

帯状で伸縮性を持った緊縛帯と、前記緊縛帯の所定の部位に取付けられると共に、緊縛帯の一端を通すことのできる孔を備えており、緊縛帯の前記一端を前記孔に通して折り返すことで、緊縛帯の他端側をループ形状に保つ形状保持手段と、前記形状保持手段によって保たれたループ形状のループの長さを固定するために、前記緊縛帯のループを作る部分の外側に設けられた緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第1面ファスナ、及び前記緊縛帯のループを作らない部分の前記第1面ファスナと対向する面に設けられ、前記第1面ファスナと固着する、緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第2面ファスナと、を備えてなり、前記形状保持手段によってループ形状が保たれている緊縛帯の内側にある身体の所定部位に、前記ループの長さを縮められ、前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで前記ループの長さを固定された緊縛帯によって圧を与えることで、血流を阻害できるように構成されている加圧筋肉増強器具であって、
前記緊縛帯の前記ループを作る部位には、前記ループの長さを縮める際に、それと前記緊

40

50

締帯の前記一端を一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着すべきであることを示す第1印が、
前記緊締帯の前記折り返しを行う部位には、そこで折り返しを行うべきであることを示す
第2印が、
それぞれ設けられている、加圧筋肉増強器具。

【請求項6】

前記第1印、前記第2印の少なくとも一つは、前記緊締帯の長さ方向で所定の長さを持つ
ている、
請求項5記載の加圧筋肉増強器具。

10

【請求項7】

前記第1印は前記緊締帯の長さ方向の異なる位置に設けられた複数の第1副印を含んでおり、前記第2印は前記緊締帯の長さ方向の異なる位置に設けられた、前記第1副印と同数であり、前記第1副印とそれぞれ対応付けられた、複数の第2副印を含んでおり、前記第2副印のいずれかを選択し、当該第2副印のある部位で前記緊締帯の折り返しを行うとともに、当該第2副印と対応付けられた前記第1副印と前記緊締帯の前記一端を一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで、前記緊締帯が身体の所定部位に与える圧を選択できるようになっている、
請求項5記載の加圧筋肉増強器具。

【請求項8】

前記複数の第1副印と、前記複数の前記第2副印との前記対応付けは、使用者が、それを 20
視覚的に把握できるようになっている、
請求項7記載の加圧筋肉増強器具。

【請求項9】

前記形状保持手段は、前記緊締帯の他端に設けられている、
請求項1又は5記載の加圧筋肉増強器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、筋肉の増強に用いる筋肉増強器具に関し、健常者のみならず運動機能に障害を有する者でも効率よく筋肉増強を図れるようにする加圧筋肉増強方法を実行するのに適した筋肉増強器具に関する。 30

【0002】

【発明の背景】

本願発明者の一人は、筋肉の増強を容易に、安全に、且つ効率よく行えるようにする筋肉増強方法を開発すべく、兼ねてから研究を行っており、その成果として平成5年特許願第313949号の特許出願を行い、特許第2670421号を受けるに至っている。

【0003】

この特許に係る筋肉増強方法は、筋肉に対する加圧を用いて行う、「加圧筋肉増強方法」と呼ばれる従来にはない特徴的なものであった。この筋肉増強方法は、以下のような理論に基づいている。

筋肉の増強は、一般的に、筋肉を疲労させて筋細胞を破壊した場合に、筋肉が、疲労の回復過程で筋細胞破壊以前の状態を越えた状態になるという「超回復」の過程を経てなされるものである。そのため、筋肉の増強にあたってはバーベルなどを用いた運動によって負荷を与え、その運動量を増加させるのが通常である。

その一方で、増強を行う対象となる筋肉における血流を阻害することによっても非常に多くの運動を行ったと同様の疲労を筋肉に与えることができる。したがって、筋肉における血流を阻害することによっても、筋肉の飛躍的な増強を図ることができるようになる。

上記特許に係る加圧筋肉増強方法は、この血流阻害による筋肉増強の理論を応用したものである。より具体的に言えば、増強を図ろうとする筋肉に対して近接する心臓に近い部位、即ちその筋肉に対して近接する上位部位に、血流を阻害させる締め付け力を与え、その 40

50

締め付け力を調整することによって筋肉に血流阻害による適切な負荷を与え、それによつて筋肉に疲労を生じさせ、もって筋肉の効率のよい増強を図るというものである。

加圧筋肉増強方法は、血流阻害による負荷を筋肉に与えることにより筋肉の増強を行うものであるため、筋肉を増強するにあたって、運動を行わなくともよくなるという大きな特徴を有する。また、この加圧筋肉増強方法は、血流阻害による負荷を筋肉に与えることにより筋肉に与える負荷の総量を補償することができるので、運動と組み合わせる場合には、運動による負荷を従来よりも減らせるという利点をもっている。この利点は、筋肉に行わせる運動量を減少させることにより、関節や筋肉の損傷のおそれを減少させられる、トレーニング期間を短縮できるようになるといった効果を生む。

10

【0004】

ところで、この筋肉増強方法を実行するには、増強を図ろうとする筋肉に流れる血流を阻害することができ、且つ増強を図ろうとする筋肉に対する血流を阻害するに相応しい適切な圧を筋肉に対して与えられる筋肉増強器具が不可欠である。

このような筋肉増強器具は、一般に、紐状、或いはベルト状の緊締帯を含んで構成される。また、このような筋肉増強器具の緊締帯は、ループ形状を保つことができ、且つそのループの長さを保つことのできる固定のための手段を備えている。

かかる加圧筋肉増強器具は、以下のように用いる。即ち、加圧筋肉増強方法を実行する者は、緊締帯が作るループの中に増強を図りたい身体の所定の部位（例えば、腕、又は脚）を通し、緊締帯が筋肉に与える締め付け力が血流を阻害させるに適當なものとなる程度にそのループの長さを縮め（締め付けを行い）、そのループの長さを保つように、固定のための上述の手段でループの長さを固定する。そして、加圧筋肉増強方法を実行する者は、そのままの状態を保つ、或いは緊締帯を身につけたまま運動を行う。これにより、加圧筋肉増強方法が実行されることになる。

20

【0005】

本願発明者は、血流阻害による筋肉増強方法を広く公衆に普及させるべく、加圧筋肉増強器具について研究を重ねている。

研究の対象の一つに、上述の加圧筋肉増強器具で用いられる緊締帯がある。緊締帯には、形状、素材などについて様々なバリエーションが考えられるが、素材に着目すれば、例えば、伸縮性のないものとあるものを挙げることができる。

30

【0006】

伸縮性のない緊締帯は、固定のための上述の手段を用いてループの長さを決定すればそのループの長さが変化することがない。したがって、締め付けを行う際に、ループの長さをある一定の長さにまで縮めれば、ループを通っている身体の所定の部位に対して緊締帯が与える圧は常に一定となるので、圧の設定を行い易いという利点を持つ。その一方で、伸縮性のない緊締帯は、運動を行うことで筋肉に膨張が生じた場合に、ループを通っている身体の所定の部位に対して緊締帯が与える圧が大きくなり易いという点で取り扱いの慎重さを要求される。緊締帯が身体の所定の部位に対して与える圧が大きくなり過ぎるのは、血流の阻害が過大になり、場合によっては血流の停止に至る原因となるので、好ましくない。

40

他方、伸縮性のある緊締帯は、ループの長さに変化が生じるので、締め付けを行う際に、ループの長さをある一定の長さにまで縮めても、ループを通っている身体の所定の部位に対して緊締帯が与える圧に変化が生じる場合がある。つまり、締め付けを行う場合に、圧の設定を正確に行うのが難しい。その代わり、伸縮性のある緊締帯は、運動を行うことで筋肉に膨張が生じた場合に、ループの長さが伸びるため、身体の所定の部位に対して緊締帯が与える圧が過大になる可能性が低く、安全性により優れている。

【0007】

このように、伸縮性のない緊締帯を用いた加圧筋肉増強器具と、伸縮性のある緊締帯を用いた加圧筋肉増強器具には、一長一短がある。

しかしながら、血流阻害による筋肉増強方法を広く公衆に普及させるという本願出願人の目的により合致するのは、運動時に圧が過大になることが少なく、安全性により優れてい

50

る伸縮性のある緊縛帯を用いた加圧筋肉増強器具であると本願発明者は判断した。

ただし、上述のとおり、伸縮性のある緊縛帯を用いた加圧筋肉増強器具には、締め付けを行う場合に、圧の設定を正確に行うのが難しいため、この点には改良の余地がある。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】

本願発明は、伸縮性のある緊縛帯を用いた加圧筋肉増強器具を、締め付け作業を行う場合に、圧の設定を正確に行えるようにすることを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本願発明は、上述の課題を解決する加圧筋肉増強器具として、以下の第1発明、第2発明¹⁰という2つの発明を提案する。

【0010】

第1発明による加圧筋肉増強器具は、帯状で伸縮性を持った緊縛帯と、前記緊縛帯の所定の部位に取付けられると共に、緊縛帯の一端を通すことのできる孔を備えており、緊縛帯の前記一端を前記孔に通して折り返すことで、緊縛帯の他端側をループ形状に保つ形状保持手段と、前記形状保持手段によって保たれたループ形状のループの長さを固定するために、前記緊縛帯のループを作る部分の外側に設けられた緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第1面ファスナ、及び前記緊縛帯のループを作らない部分の前記第1面ファスナと対向する面に設けられ、前記第1面ファスナと固着する、緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第2面ファスナと、を備えてなり、前記形状保持手段によってループ形状が保たれている緊縛帯の内側にある身体の所定部位に、前記ループの長さを縮められ、前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで前記ループの長さを固定された緊縛帯によって圧を与えることで、血流を阻害できるように構成されている加圧筋肉増強器具である。²⁰そして、この加圧筋肉増強器具の前記緊縛帯の前記ループを作る部位には、第1印が、前記緊縛帯の前記折り返しを行う部位には、そこで折り返しを行るべきであることを示す第2印が、前記緊縛帯の前記ループを作る部分以外の部位には、前記ループの長さを縮める際に、前記ループの第1印と一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着すべきであることを示す第3印が、それぞれ設けられている。

【0011】

この加圧筋肉増強器具が備える緊縛帯は、伸縮性を持っておりその緊縛帯に設けられる第1面ファスナ及び第2面ファスナもまた伸縮性をもっている。したがって、この加圧筋肉増強器具は、それを使用しているときに運動を行ったとしても、緊縛帯が筋肉に与える圧が過大になる可能性が低く、安全性という面で優れている。³⁰

【0012】

この緊縛帯の前記ループを作る部位には、第1印が、前記緊縛帯の前記折り返しを行う部位には、そこで折り返しを行るべきであることを示す第2印が、前記緊縛帯の前記ループを作る部分以外の部位には、前記ループの長さを縮める際に、前記ループの第1印と一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着すべきであることを示す第3印が、それぞれ設けられている。したがって、この加圧筋肉増強器具は、締め付け作業を行う場合に、圧の設定を正確に行えるようなものとなっている。⁴⁰

その理由を補足して説明する。

上述の通り、第1発明に係る加圧筋肉増強器具は、前記緊縛帯の所定の部位に取付けられると共に、緊縛帯の一端を通すことのできる孔を備えており、緊縛帯の前記一端を前記孔に通して折り返すことで、緊縛帯の他端側をループ形状に保つ形状保持手段を備えている。そして、その形状保持手段によってループ形状が保たれている緊縛帯の内側にある身体の所定部位に対して、前記ループの長さを縮めることで締め付けを行い、前記第1面ファスナ及び前記第2面ファスナを固着することで前記ループの長さを固定することによってその締め付け状態を保つことにより、血流を阻害し、これにより加圧筋肉増強方法を実行するものとなっている。

この加圧筋肉増強器具で圧を正確に設定するには、前記第1面ファスナ及び前記第2面フ⁵⁰

アスナを固着する直前の、ループを形成している部分の緊締帯にかかっている張力を所望のものとすることが必要である。

しかしながら、これには困難がある。緊締帯は、上述のように、伸縮性を持っており、また、ループを形成している部分の緊締帯と、ループを形成していない部分の緊締帯は一連であるため、ループを形成していない部分の緊締帯の長さを一定の長さにしたからといって、ループを形成している部分の緊締帯にかかっている張力は必ずしも一定にならないからである。それ故、そのループの内側にある身体の所定部分に与えられる締め付け力も一定にならない。

そこで、上記第1印、第2印、及び第3印が役に立つ。上述の締め付け作業を行う際に、
第2印の部分で緊締帯を折り返し、第3印を第1印と一致させ、その状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着させることで、ループの長さの固定を行う際にループを形成している部分の緊締帯にかかっている張力を一定にできるようになるからである。つまり、第1印、第2印、及び第3印を上述の如く用いれば、ループを作っている部分の緊締帯の長さと、そこにかかる張力に影響を与えるループを作っていない部分の緊締帯の長さとを一定にできるため、設定どおりの圧を、ループの内側にある身体の所定の部分にかけられるようになる。
10

【0013】

第1発明に係る加圧筋肉増強器具における第1印、第2印、第3印は、どのようなものでも構わない。使用者がそこに印があると認識できるものであれば良い。第1印、第2印、第3印は、視覚的に把握できるものであれば便利であるが、手触りで把握できるものであってもよい。
20

第1印、第2印、第3印の少なくとも一つは、緊締帯の長さ方向で所定の長さを持つものとなっていてもよい。圧の設定を正確に行えるようにするには、かかる長さを持たない方がよいが、許される圧の範囲に応じて上記第1印、第2印、第3印に所定の長さを与えた方が、使用者によって使用し易い場合がある。

第1印は、前記緊締帯の長さ方向の異なる位置に設けられた複数の第1副印を含んでいてもよい。この場合の第2印は、前記緊締帯の長さ方向の異なる位置に設けられた、前記第1副印と同数であり、前記第1副印とそれぞれ対応付けられた、複数の第2副印を含んでいてもよい。第1印が第1副印を、第2印が第2副印を含む場合には、使用者が前記第2副印のいずれかを選択し、当該第2副印のある部位で前記緊締帯の折り返しを行うとともに、当該第2副印と対応付けられた前記第1副印と前記第3印を一致させた状態で、前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで、前記緊締帯が身体の所定部位に与える圧を選択できるようになる。これは、加圧の程度を変えて、異なる負荷での筋肉トレーニングを実行できるという利点を生む。第1印が複数の第1副印を、第2印が複数の第2副印を含む場合における前記複数の第1副印と、前記複数の前記第2副印との前記対応付けは、使用者が、それを視覚的に把握できるようにすることもできる。第1印が複数の第1副印を、第2印が複数の第2副印を含む場合には、緊締帯の折り返しの場所を示す第2副印と、第3印と一致させる第1副印とを、互いに対応させられている正しい組合せで選択する必要が生じるが、かかる対応付けを、使用者が、それを視覚的に把握できるようにしておくことにより、その選択を容易に行えるようになる。対応付けを、使用者が、それを視覚的に把握できるようにするには、例えば、互いに対応する第1副印及び第2副印に同一の番号、アルファベットなどの符合を目に入れるようにふっておく、或いは、互いに対応する第1副印及び第2副印を同一の色彩とするなどの手法が考えられる。
30
40

【0014】

なお、第1印（第1副印を含む）、第2印（第2副印を含む）、第3印は、緊締帯に設けられるが、これを設けるべき部分に他の部材（例えば、面ファスナ）が設けられているのであれば、その部材に設けられていても構わない。第1発明は、そのような場合も含む。

【0015】

第2発明による加圧筋肉増強器具は、帯状で伸縮性を持った緊締帯と、前記緊締帯の所定の部位に取付けられると共に、緊締帯の一端を通すことのできる孔を備えており、緊締帯
50

の前記一端を前記孔に通して折り返すことで、緊縛帯の他端側をループ形状に保つ形状保持手段と、前記形状保持手段によって保たれたループ形状のループの長さを固定するためには、前記緊縛帯のループを作る部分の外側に設けられた緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持つ第1面ファスナ、及び前記緊縛帯のループを作らない部分の前記第1面ファスナと対向する面に設けられ、前記第1面ファスナと固着する、緊縛帯の長さ方向の伸縮性を持った第2面ファスナと、を備えてなり、前記形状保持手段によってループ形状が保たれている緊縛帯の内側にある身体の所定部位に、前記ループの長さを縮められ、前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで前記ループの長さを固定された緊縛帯によって圧を与えることで、血流を阻害できるように構成されている加圧筋肉増強器具である。そして、この加圧筋肉増強器具の緊縛帯の前記ループを作る部位には、前記ループの長さを縮める際に、それと前記緊縛帯の前記一端を一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着すべきであることを示す第1印が、前記緊縛帯の前記折り返しを行う部位には、そこで折り返しを行うべきであることを示す第2印が、それぞれ設けられている。

10

【0016】

第2発明は第1発明と略同様のものである。第1発明と異なるのは、第2発明は第1発明が備えていた如き第3印を持たないという点である。第3発明では、緊縛帯の一端を、第1発明における第3印として用いる。つまり、第1発明による加圧筋肉増強器具では、上述の如き締め付け作業を行う際に、第2印の部分で緊縛帯を折り返し、第3印を第1印と一致させ、その状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着させるようになっていたが、第2発明による加圧筋肉増強器具では、締め付け作業を行う際に、第2印の部分で緊縛帯を折り返し、緊縛帯の一端を第1印と一致させ、その状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着させるようにしている。これにより、第2発明は、第1発明の場合と同様に、ループの長さの固定を行う際にループを形成している部分の緊縛帶にかかる張力を一定に保てるようになる。

20

なお、第2発明に係る加圧筋肉増強器具が備える緊縛帯と、その緊縛帯に設けられる第1面ファスナ及び第2面ファスナは、第1発明の場合と同様に伸縮性をもっているので、第2発明に係る加圧筋肉増強器具が、第1発明に係る加圧筋肉増強器具の場合と同様に、それを使用しているときに運動を行ったとしても、緊縛帯が筋肉に与える圧が過大になる可能性が低く、安全性が優れているのは勿論である。

30

【0017】

上述したように、第1発明に係る加圧筋肉増強器具における第1印、第2印、第3印は、どのようなものでも構わないが、第2発明に係る加圧筋肉増強器具における第1印、第2印も同様である。第1印、第2印は、視覚的、手触りなどにより使用者が把握できるものであればよい。

第1印、第2印の少なくとも一つは、緊縛帯の長さ方向で所定の長さを持つものとなっていてよい。第1印、第2印、第3印のいずれかに所定の長さを与えた場合の第1発明の場合と同様に、第1印、第2印に所定の長さを与えた方が、使用者によって使い易い場合があるからである。

40

第1印は、前記緊縛帯の長さ方向の異なる位置に設けられた複数の第1副印を含んでいてよい。この場合の第2印は、前記緊縛帯の長さ方向の異なる位置に設けられた、前記第1副印と同数であり、前記第1副印とそれぞれ対応付けられた、複数の第2副印を含んでいてよい。第1印が第1副印を、第2印が第2副印を含む場合には、使用者が前記第2副印のいずれかを選択し、当該第2副印のある部位で前記緊縛帯の折り返しを行うとともに、当該第2副印と対応付けられた前記第1副印と前記緊縛帯の前記一端を一致させた状態で前記第1面ファスナと前記第2面ファスナとを固着することで、前記緊縛帯が身体の所定部位に与える圧を選択できるようになる。これは、加圧の程度を変えて、異なる負荷での筋肉トレーニングを実行できるという利点を生む。第1印が複数の第1副印を、第2印が複数の第2副印を含む場合における前記複数の第1副印と、前記複数の前記第2副印との前記対応付けは、使用者が、それを視覚的に把握できるようにすることもできる。第

50

1印が複数の第1副印を、第2印が複数の第2副印を含む場合には、緊締帶の折り返しの場所を示す第2副印と、緊締帶の一端に一致させる第1副印とを、互いに対応させられている正しい組合せで選択する必要が生じるが、かかる対応付けを、使用者が、それを視覚的に把握できるようにしておくことにより、その選択を容易に行えるようになる。使用者が、対応付けを視覚的に把握できるようにするには、上述のごとき手法を用いればよい。

【0018】

なお、第1印（第1副印を含む）、第2印（第2副印を含む）は、緊締帶に設けられるが、これを設けるべき部分に他の部材（例えば、面ファスナ）が設けられているのであれば、第2部材に設けられていても構わない。本発明は、そのような場合も含む。

10

【0019】

第1発明、及び第2発明における前記形状保持手段は、前記緊締帶の所定の部位に取付けられると共に、緊締帶の一端を通すことのできる孔を備えており、緊締帶の前記一端を前記孔に通して折り返すことで、緊締帶の他端側をループ形状に保つものであればその詳細は問わない。

形状保持手段は、例えば、前記緊締帶の他端に設けられることができる。

なお、形状保持手段が備える孔は、孔の一部が外部と繋がっている（リング状の部材の一部が欠けて、その孔がリング状の部材の外側と繋がっている）場合をも含むものである。緊締帶がその孔から抜けない限り、その孔を囲む部材の一部に欠けがあっても構わない。

【0020】

20

【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい第1実施形態、及び第2実施形態について説明する。

なお、第1実施形態、第2実施形態の説明において、同一のものについては同一の符号を付すものとし、また、重複する説明は場合により省略することとする。

【0021】

【第1実施形態】

本発明の第1実施形態では、本発明による加圧筋肉増強器具を応用した加圧筋肉増強用衣服1について説明を行う。

この実施形態における加圧筋肉増強用衣服1は、下肢の筋肉を増強させる場合に使用されるものである。この加圧筋肉増強用衣服1は、図1に示したように、パックル付き衣服10とベルト20により構成されるものである。なお、図1は、パックル付き衣服10、及びベルト20を含んで構成される、加圧筋肉増強用衣服1の全体を示す正面図である。

30

【0022】

パックル付き衣服10は、衣服本体11と、2つのパックル12とを含んで構成される。

【0023】

この実施形態における衣服本体11は、一般的なハーフパンツであり、脚を通す2つの筒状部分を持っている。なお、この実施形態における衣服本体11は、この限りではないが、運動を行い易いように、一定の伸縮性としなやかさを持つ生地により作られている。また、衣服本体11の背面には、パックル付き衣服10の背面図である図2に示したように、衣服本体11の背面との間で輪を作り、その輪の中にベルト20を通して係止するための、細い帯状の布で作られた複数のベルト通し13を備えている。

40

【0024】

パックル12は、後述するように、ベルト20を衣服本体11に固定するとともに、ベルト20が作る後述のループを保つためのものであり、本発明の形状保持手段として機能するものである。

パックル12は、衣服本体11の上記筒状部分の基端部に取付けられている。

この実施形態では、パックル12は、2つの筒状部分の両方に取付けられている。もっとも、パックル12は、2つの筒状部分の一方に取付けられていれば足りる。

パックル12の取付けられている上下方向の位置は、上述のベルト通し13の上下方向の位置に対応するようにされている。パックル12は、また、衣服本体11の前部に取付けられている。パックル12のこの取付け位置は、パックル付き衣服10を着た人が、バッ

50

ケル付き衣服10にベルト20を固定して加圧筋肉増強用衣服1とする際における、その脱着作業の行い易さを意図して決定されている。

この実施形態におけるパックル12は、図3に示したような形状をしている。

図3は、パックル12の構成を示す拡大図である。パックル12は、棒状の部材を矩形に連ねて形成された枠部12aと、枠部12aを構成する辺のうち対向する2本の略中央の間にわたされた棒状の部材である取付け部12bとを含んで構成される。また、この取付け部12bにより枠部12aが分割されることにより、枠部12aの内部には、2つのパックル孔12cが形成されている。

取付け部12bは、パックル12を衣服本体11へ取付ける際に利用されるものである。
パックル12は、Uの字型に折り曲げられるとともにその両端部を衣服本体11に縫合などによって固定されている、衣服本体11と同質とされた帯状の固定用布14を介して、衣服本体11に取付けられているのであるが、上述の取付け部12bを固定用布14の折り返し部分に係止することで、衣服本体11への取付けをなされている。つまり、固定用布14に取付け部12bを跨がせ、その状態で固定用布14の両端部を衣服本体11に固定することで、パックル12の衣服本体11への固定がなされている。なお、パックル12の衣服本体11への固定に固定用布14を用いることで、パックル12が多少の移動を行えるようになる。これは、ベルト20の脱着作業の行い易さを増すものである。

【0025】

次に、ベルト20の構成について説明する。

ベルト20は、上述したように、パックル付き衣服10のパックル12に取付けて用いられる。ベルト20は、パックル付き衣服10を着用した際に筒状部分の内側にある使用者の身体の所定部位（この実施形態であれば、脚の基端部）を締め付け、そこに所定の加圧力を与えることによって、脚に流れる血流を適度に阻害する機能を有している。この状態で、安静にする、又は軽くてもよいので運動を行うことで、加圧筋肉増強方法が実行されることになる。

ベルト20は、本発明の緊締帶に相当するものであり、帯状とされ、且つ伸縮性を有する素材でできている。ベルト20は、その一端部でパックル12に固定できるようになっている。ベルト20のパックル12に対する固定を行えるようにすべく、パックル12の一端部側には、ベルト20の一端部側を折り返し、その折り返したベルト20の一端部を、ベルト20の他端部寄りの部分に固定して輪を作るための機構が設けられている。具体的には、ベルト20の一方の面の一端部に2つのホック21が、また、それと同一の面のやや他端部より前記ホック21とそれぞれ係止でき、またその係止を解除できる2つのホック22が、それぞれ設けられている。ベルト20は、ベルト20の一端部側をパックル孔12cのうち衣服本体11の中心線により位置するものに、図1の裏側から通すとともに、パックル12の枠部12aのうち、ズボンの中心線により位置する縦向きの部材を跨ぐようにして折り返し、互いに対応するホック21と、ホック22を係止しあうことで、パックル12へ固定される。パックル12の枠部12aのうち、衣服本体11の中心線より位置する縦向きの部材は、ベルト20の一端側に作られた輪を貫通し、そこから抜け出せなくなるので、パックル12とベルト20が固定されるわけである。

【0026】

この状態で、パックル付き衣服10とベルト20は、図4に示したように互いに固定され、加圧筋肉増強用衣服1となり、加圧筋肉増強方法を実行できるようになる。

かかる加圧筋肉増強用衣服1の中に、パックル12と、このパックル12と固定されたベルト20が含まれている。パックル12と、このパックル12と固定されたベルト20により、本発明による加圧筋肉増強器具1が構成される。

【0027】

ベルト20のホック21、22が設けられている側の面には、また、互いに固着しあう面ファスナ23、24が設けられている。面ファスナ23、24のうち一端部側にある面ファスナ23は、ベルト20が作る後述のループの部分に凡そ沿うように、他端部側にある面ファスナ24は、ベルト20が作る後述のループ以外の部分に凡そ沿うようにして配さ

10

20

30

40

50

れている。

ベルト20の面ファスナ23、24が設けられている面には、第1印P、第2印Qが設けられている。この実施形態における第1印は複数の第1副印P1を、第2印は複数の第2副印Q1を含んで構成されている。第1印Pは、後述のように、ベルト20で作ったループの長さを縮める際に、ベルト20の他端側をそこに一致させた状態で、面ファスナ23と面ファスナ24とを固着すべきであることを示すものである。第2印Qは、後述のように、バックル12でベルト20を折り返すときに、そこで折り返しを行なうことを示すものである。

複数の第1副印P1は、ベルト20を（より詳細には、ベルト20の表面に設けられた面ファスナ23を）、図5に示したように長さ方向で区画し、そのそれぞれを、隣接するものとは視覚的に区別できるように塗り分けることで、形成されている。この実施形態における第1副印P1は、第1副印P1としてこれには限らないが4つの区画を設け、そのそれを異なる色で塗り分けることによって形成されている。より詳細には、この実施形態の第1副印P1は、赤（図5ではRと記載）、緑（図5ではGと記載）、青（図5ではBと記載）、白（図5ではWと記載）の4色で塗り分けられた、4つの区画として形成されている。

複数の第2副印Q1は、ベルト20を（より詳細には、ベルト20の表面のうち、面ファスナ23と面ファスナ24の間から露出する部分を）、図5に示したように長さ方向で区画し、そのそれを、隣接するものとは視覚的に区別できるように塗り分けることで、形成されている。第2副印Q1のそれぞれは、第1副印P1と対応付けられている。この実施形態における第2副印Q1は、第2副印Q1として4つの区画を設け、そのそれを異なる色で塗り分けることによって形成されている。より詳細には、この実施形態の第1副印Q1は、赤（図5ではRと記載）、緑（図5ではGと記載）、青（図5ではBと記載）、白（図5ではWと記載）の4色で塗り分けられた、4つの区画として形成されている。第2副印Q1に付された4色は、第1副印P1に付された4色とすべて一致しており、また、第2副印Q1に付された4色の順番は、第1副印P1に付された4色の順番と一致している。したがって、使用者は、どの第1副印P1とどの第2副印Q1が対応付けられているかということを、視覚により把握できる。つまり、同一の色彩が付されている第1副印P1と第2副印Q1とが、互いに対応付けられているのである。

【0028】

かかる加圧筋肉増強用衣服1を用いて加圧筋肉増強方法を実行するための手順について、図4、図6及び図7を用いて説明する。

図4の如き加圧筋肉増強用衣服1を使用する使用者は、図4の如き加圧筋肉増強用衣服を着用している。その状態で使用者は、図4、図6に示すように、脚の周りを背後から一周するように、ベルト通し13を通しながらまわしたベルト20の他端側を、2つのバックル孔12cのうち衣服本体11の中心線から離れているものに、図4の裏側、図6の上側から通す。そして、そのままベルト20の他端側を引っ張り、バックル12を起点及び終点にしてベルト20により形成されたループの長さを縮めることで、ループ状にされたベルト20が衣服本体11の内側にある使用者の脚の基端部を締め付ける。このとき、ベルト20の他端側を引っ張る強さを調節し、脚の筋肉に与えられる締め付け力が適当なものとなるように調節する。ベルト20を、図6のXの方向に引っ張ると、バックル12の位置がY方向にずれる。

次に、ベルト20の他端側を、バックル12の枠部12aのうち、ズボンの中心線から離れている縦向きの部材を支点として折り返し、面ファスナ23、24を互いに固着させる。

バックル12の枠部12aのうち、ズボンの中心線から離れている縦向きの部材を支点としてベルト20を折り返すとき、使用者は、第1副印P1の中から自己の望む（あるいは指定された）第1副印P1が、支点となる上述の部材に重なるようにする。また、面ファスナ23、24を互いに固着せると、ベルト20の先端が、選択した第1副印P1と同じ色が付された（選択した第1副印P1と互いに対応付けられた）第2副印Q1と重なる

10

20

30

40

50

ようとする。

このようにすると、ベルト20が作る上記ループが、そのループ内にある脚の筋肉に与える締め付け力は、所望の、設定されたとおりのものとなる。
この状態で、安静にする、又は軽くてもよいので運動を行うことで、加圧筋肉増強方法が実行される。なお、この加圧筋肉増強用衣服1を用いれば、加圧筋肉増強方法は、片足ずつでも、両足同時にでも実行できる。

【0029】

このとき、図7に示すように、バックル12は、ベルト20の締め付けに伴ってその位置がずれ、脚の運動の妨げにならない所定の位置、具体的には衣服本体11の外側部に移動しているため、バックル12が使用者が行う運動を妨げることはない。衣服本体11の形状、素材（伸縮性）、固定用布14の形状、素材（伸縮性）¹⁰は、加圧筋肉増強方法を行うに相応しい圧を筋肉に与えるに程よい位置までベルト20を引っ張ったときに、バックル12が脚の運動の妨げにならない位置に来るよう選択されている。

【0030】

＜第1実施形態の変形例1＞

この実施形態によるベルト20には、複数の第1副印P1、複数の第2副印Q1が設けられていたが、第1副印P1、第2副印Q1のうち、互いに対応付けられた一組のみの残し、他の部分に特に色彩を付さないようにすることができる。

この場合には、残された一組の第1副印P1、第2副印Q1が、本発明における第1印、第2印として機能する。²⁰

例えば、赤が付された区画のみが、他の部分と特に異なる色となっている場合には、バックル12の枠部12aのうち、ズボンの中心線から離れている縦向きの部材を支点としてベルト20を折り返すときに、使用者は、その第2副印Q1が、支点となる上述の部材に重なるようにする。また、面ファスナ23、24を互いに固着させるとき、ベルト20の先端が、第1副印P1と重なるようにする。このようにすると、ベルト20が作る上記ループが、そのループ内にある脚の筋肉に与える締め付け力は、所望の、設定されたとおりのものとなる。

【0031】

＜第1実施形態の変形例2＞

上述の例における第1副印P1、及び第2副印Q1は、ベルト20の一方の面上を長さ方向で区画し、そのそれぞれを、隣接するものとは視覚的に区別できるように塗り分けたものとなっている。これに代えて、例えば、図8に示したような第1副印P1、及び第2副印Q1を採用することができる。即ち、第1副印P1として、複数の、例えば4つであれば、▲1▼～▲4▼の記号を採用し、第2副印Q1として、これらのそれぞれと対応付けられた▲1▼～▲4▼の記号を採用することができる（この場合、○の中の数字が等しいものが対応付けられている。）。このような第1副印P1、及び第2副印Q1を採用しても、第1実施形態の場合と同様の圧設定を正確に行えるという作用効果を得ることができる。³⁰

【0032】

＜第1実施形態の変形例3＞

上述の例では、本発明における加圧筋肉増強具は、加圧筋肉増強用衣服1の一部となっていた。

もっとも、本発明における加圧筋肉増強器具は、加圧筋肉増強用衣服1を構成するバックル付き衣服10から、切り離すことが可能である。

その際には、固定用布14のバックル12の取付け部12bに対する係止を外せばよい。
この場合には、固定用布14との係止のために存在するバックル12の取付部12Bはなくともよいということになる。

【0033】

＜第2実施形態＞

第2実施形態で説明するのは、上肢の筋肉を増強させる場合に使用される加圧筋肉増強用⁵⁰

衣服2であり、第1実施形態の場合と同様に、バックル付き衣服10とベルト20により構成されるものである。なお、図9は、本発明の第2実施形態によるバックル付き衣服10、及びベルト20を含んで構成される、加圧筋肉増強用衣服1の全体を示す正面図である。

【0034】

図9に示される本発明の第2実施形態による加圧筋肉増強用衣服1は、第1実施形態の加圧筋肉増強用衣服1と加圧する場所が異なるため、第1実施形態の加圧筋肉増強用衣服1との間でそれに応じた差異を持つ。

【0035】

第2実施形態のバックル付き衣服10は、第1実施形態のバックル付き衣服10と同様に、衣服本体11とバックル12とを含んでいる。ただし、第2実施形態による加圧筋肉増強用衣服2は、上肢の筋肉を増強させる場合に使用されるものであるため、衣服本体11の形状が第1実施形態の場合と異なり、一般的なTシャツ形状とされ、腕を通す2つの筒状部分をもっている。バックル12は、衣服本体11の筒状部分の両基端部の前面にそれぞれ設けられている。

第2実施形態の衣服本体11の背面にも、図10に示したように、第1実施形態の場合と同様のベルト通し13が設けられているが、ベルト通し13とバックル3の位置は、第1実施形態の場合と異なり、その横方向の位置が対応するようになっている。

その他の部分では、第2実施形態の衣服本体11は、第1実施形態のそれと同様のものである。

10

20

【0036】

第2実施形態におけるベルト20は、第1実施形態のベルト20と、加圧する場所の相違に基づく以下の点で異なる。即ち、サイズと、伸縮性という点で相違を持つのである。第2実施形態におけるベルト20は、第1実施形態におけるベルト20よりも細く、短く、そして伸縮性が大きい。

【0037】

第2実施形態の衣服本体11も、第1実施形態の場合と同様に、ベルト20と固定された状態で、筋肉増強方法を実行できるものとなる。筋肉増強方法を実行するための手順は、第1実施形態の場合と同様である。ただし、この場合に締め付けられるのは、腕の基端部であり、腕の筋肉に対して加圧筋肉増強方法を実行できるようになっている。

30

加圧筋肉増強方法を実行している状態を、図11に示す。この場合にも、バックル12は、腕の運動の妨げにならない所定の位置、具体的には衣服本体11の外側部に移動している。したがって、バックル12が使用者が行う運動を妨げることはない。

【0038】

第2実施形態におけるベルト20には、図12に示したように、第1実施形態におけるベルト20に設けられていた第1印P、第2印Qに加えて、第3印Rが設けられている。

この第3印Rは、ベルト20の第1印P、第2印Qが設けられる面とは逆側の面に設けられている。この実施形態における第3印Rは、これには限らないが、丸印である。

第2実施形態による加圧筋肉増強用衣服2で加圧筋肉増強方法を実行する場合、使用者は、第1実施形態による加圧筋肉増強用衣服1と同様の以下のような締め付け作業を行う。

40

即ち、

(1) 腕の周りを背後から一周するようにまわしたベルト20の他端側を、2つのバックル孔12cのうち衣服本体11の中心線から離れているものに通し、

(2) そのままベルト20の他端側を引っ張り、バックル12を起点及び終点にしてベルト20により形成されたループの長さを縮めることで、ループ状にされたベルト20で衣服本体11の内側にある使用者の脚の基端部を締め付け、

(3) ベルト20の他端側を、バックル12の枠部12aのうち、ズボンの中心線から離れている縦向きの部材を支点として折り返し、

(4) 面ファスナ23、24を互いに固着させる。

第2実施形態の加圧筋肉増強用衣服2でかかる締め付け作業のうち上記(3)の折り返し

50

□

を行う場合には、使用者は、第1実施形態の場合と同様に、第2副印Q1の中から自己の望む（或いは指定された）第2副印Q1が、支点となる上述の部材に重なるようにする。第2実施形態の加圧筋肉増強用衣服2でかかる締め付け作業のうち上記（4）の面ファスナ23、24の固着を行う場合には、使用者は、第3印が、選択した第2副印Q1と同じ色が付された（選択した第1副印Q1と互いに対応付けられた）第1副印P1と重なるようになる。

このようにすると、第1実施形態の場合と同様に、ベルト20が作る上記ループが、そのループ内にある脚の筋肉に与える締め付け力は、所望の、設定されたとおりのものとなる。

10

【0039】

<第2実施形態の変形例1>

第2実施形態によるベルト20には、複数の第1副印P1、複数の第2副印Q1が設けられていたが、第1副印P1、第2副印Q1のうち、互いに対応付けられた一組のみの残し、他の部分に特に色彩を付さないようにすることができる。

この場合には、<第1実施形態の変形例1>の場合と同様に、残された一組の第1副印P1、第2副印Q1が、本発明における第1印、第2印として機能する。

例えば、赤が付された区画のみが、他の部分と特に異なる色となっている場合には、バックル12の枠部12aのうち、ズボンの中心線から離れている縦向きの部材を支点としてベルト20を折り返すときに、使用者は、その第1副印P1が、支点となる上述の部材に重なるようになる。また、面ファスナ23、24を互いに固着させるとき、第3印が、第2副印Q1と重なるようすれば、ベルト20の作る上記ループが、そのループ内にある腕の筋肉に与える締め付け力を一定にできる。

20

【0040】

<第2実施形態の変形例2>

第2実施形態における第1副印P1、及び第2副印Q1は、<第1実施形態の変形例2>の場合と同様に、複数の、例えば4つであれば、▲1▼～▲4▼の記号を採用し、第2副印Q1として、これらのそれぞれと対応付けられた▲1▼～▲4▼の記号を採用することができる（この場合、○の中の数字が等しいものが対応付けられている。）。このような第1副印P1、及び第2副印P2を採用しても、第1実施形態の場合と同様の圧設定を正確に行えるという作用効果を得ることができる。

30

【0041】

<第2実施形態の変形例3>

第2実施形態の加圧筋肉増強具2は、加圧筋肉増強用衣服1の一部となっていたが、第1実施形態の変形例3の場合と同様に、バックル付き衣服10から、切り離すことが可能である。

【0042】

<第2実施形態の変形例4>

第2実施形態の加圧筋肉増強用衣服2は、ベルト20のループを作らない部分の幅を、図13に示したように、ループを作る部分よりも細くすることができる。

上記（4）の面ファスナ23、24の固着を行う場合に、第3印Rと、先に選択した第2副印Q1と同じ色が付された（選択した第2副印Q1と互いに対応付けられた）第1副印P1とが重なるようにするのは、ループを作っていない部分のベルト20が、第1印を隠してしまうので、使用者にとって難しい。

40

ベルト20のループを作っていない部分の幅を細くすることで、面ファスナ23、24の固着時に、第1印を確認しやすくなる。

【0043】

【発明の効果】

本発明によれば、伸縮性のある緊締帶を用いた加圧筋肉増強器具は、締め付け作業を行う場合に、圧の設定を正確に行えるようになる。

【図面の簡単な説明】

50

【図 1】本発明の第 1 実施形態の加圧筋肉増強用衣服の全体構成を示す正面図。

【図 2】図 1 に示した加圧筋肉増強用衣服に含まれるバックル付き衣服を示す背面図。

【図 3】本発明のバックルを示す図。

【図 4】本発明の第 1 実施形態のバックル付き衣服のバックルに対するベルトの締め付け方を示す図。

【図 5】図 1 に示したベルトに設けられた第 1 印、第 2 印を示す図。

【図 6】図 4 のベルトの締め付け方向と、締め付けに伴うバックルの移動方向を示した図

【図 7】本発明の第 1 実施形態のバックル付き衣服にベルトを締め付けた状態を示す図。

【図 8】図 1 に示した加圧筋肉増強用衣服に含まれるバックル付き衣服の第 2 変形例を示す図。 10

【図 9】本発明の第 2 実施形態の加圧筋肉増強用衣服の全体構成を示す正面図。

【図 10】図 9 に示した加圧筋肉増強用衣服に含まれるバックル付き衣服を示す背面図。

【図 11】本発明の第 2 実施形態の加圧筋肉増強用衣服にベルトを締め付けた状態を示す図。 11

【図 12】本発明の第 2 実施形態の加圧筋肉増強用衣服で用いられるベルトを示す図。

【図 13】本発明の第 2 実施形態の加圧筋肉増強用衣服の第 4 変形例で用いられるベルトを示す図。

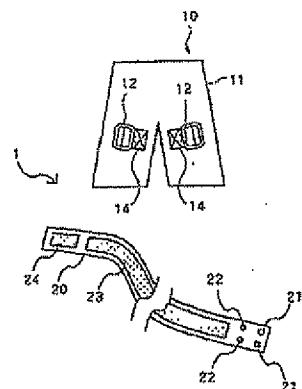
【符号の説明】

1	加圧筋肉増強用衣服
2	加圧筋肉増強用衣服
1 0	バックル付き衣服
1 1	衣衣服本体
1 2	バックル
1 2 a	枠部
1 2 b	取付け部
1 2 c	バックル孔
1 4	固定用布
2 0	ベルト
2 1	ホック
2 2	ホック
2 3	面ファスナ
2 4	面ファスナ

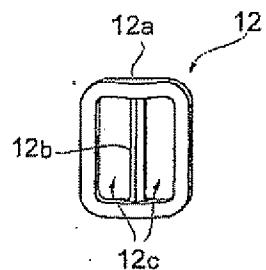
20

30

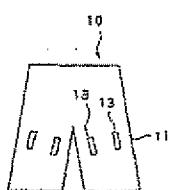
【図1】



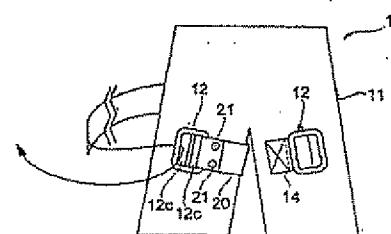
【図3】



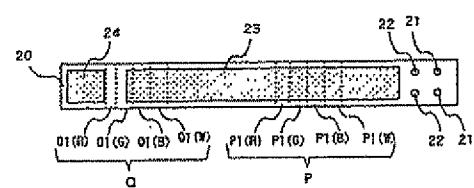
【図2】



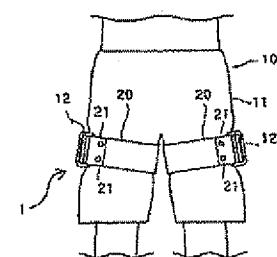
【図4】



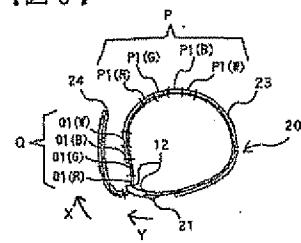
【図5】



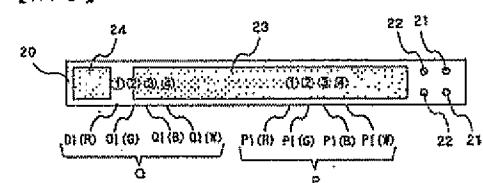
【図7】



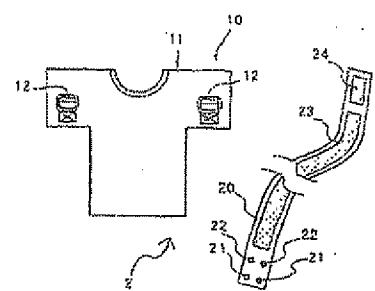
【図6】



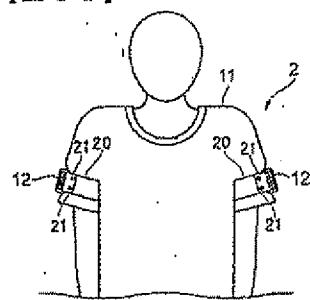
【図8】



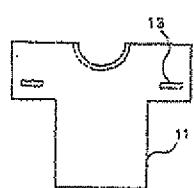
【図9】



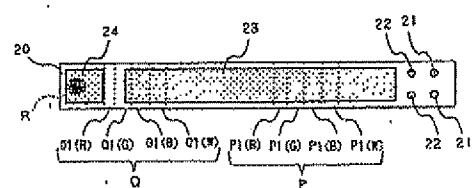
【図11】



【図10】



【図12】



【図13】

